

たまねぎレポート【365号】



平成30年3月26日

阪南青果株式会社

社内報

2月の天候は、強い寒気の影響で、気温は全国的に低く、日本海側では北陸地方を中心に記録的な大雪となった。東日本の太平洋側では、降水量はかなり少なく月間の日照時間が多かった。3月は、平年に比べ晴天が少なく、寒暖の差が大きかったが、桜の開花は平年より1週間前後も早く、今月中に満開の地域が多い。他方、府県産玉葱の生育は、年明けの冷え込みと日照不足で、2週間前後も遅れていたが、数日來の温暖な晴天続きで、顕著に回復している。気象庁の4～6月の3か月予報では、平均気温は、北・東・西日本で高く、沖縄・奄美で平年並みまたは高い。降水量は、沖縄・奄美で平年並みまたは少ない。月別予報は次の通り。

4月、北日本では、天気は数日の周期で変わり、太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ない。東日本と西日本では、天気は数日の周期で変わるが、太平洋側と西日本は平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年

に比べ曇りや雨の日が少ない。

5月、北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

6月、北日本では、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。東・西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

2月の建値市場の野菜の入荷は、いずれの市場も前月に続き前年比減であった。平均単価はいずれの市場も前年比16～36%高であった。市場別の入荷と平均単価は、札幌市場の入荷は前年比92%、平均単価はkg¥225前年比116%。東京市場は前年比92%の入荷で、平均単価はkg¥314前年比123%。名古屋市場は前年比91%の入荷で、平均単価はkg¥287前年比121%。大阪本場は前年比95%の入荷で、平均単価はkg¥293前年比117%。福岡市場は前年比82%の入荷で、平均単価はkg¥220前年比136%となっている。

2月の玉葱の建値市場(上記)の販売量は、26,087トン前年比84%で、前月に続き前年を下回った。いずれの市場も、入荷は前年比減で価格は前年比・前月比高であった。市場別の入荷量と平均価格は、札幌市場の入荷は前年比96%で、平均単価はkg¥83前年比126%。東京市場の入荷前年比88%、平均単価はkg¥121前年比117%。名古屋市場の入荷は前年比89%で、平均単価はkg¥104前年比120%。大阪本場の入荷は前年比86%で、平均単価はkg¥116前年比123%。福岡市場の入荷は前年比50%、平均単価はkg¥109前年比116%となっている。

日本農業新聞社の全国主要7地区の代表荷受7社の集計値では、2月の主

要野菜14品目の販売量は、73,366トン前年比87%(前月比97%)、平均単価はkg¥208前年比132%(前月比103%)で、前月に続き数量減の単価高となっている。販売量が前年比増となっている品目は、馬鈴薯の2%増だけ。前年比減となっている品目は、タマネギの25%減を始め、キャベツの24%減、ダイコンの22%減など13品目。価格は全面高で前年比高となっている品目は、ダイコンが前月に続き前年比2倍の104%高、キャベツが98%高、ハクサイが76%高など12品目。因みにタマネギは前年比16%高となっている。前年比安となっている品目は、ジャガイモが前年比44%安、トマトが8%安の2品目だけである。

東京都中央卸売市場の2月の野菜の入荷は、107,526トン前年比92%(前月比99%)。平均単価はkg¥314前年比123%(前月比98%)でやや沈静化傾向となったものの、総じて堅調に推移し、前月同様多くの品目で品薄高となった。

主要品目で入荷が前年を上回った品目は、バレイショが前年比112%、ハクサイが111%、生シイタケが104%3品目。前年を下回った品目は、ダイコンの前年比77%を始め、ハウレンソウが79%、レタスが80%など11品目。販売単価が前年比高であった品目は、キャベツが¥252で前年比196%、ダイコンがkg¥173で192%、ハクサイがkg¥164で166%など、12品目でほぼ全面高。前年比安であった品目は、バレイショがkg¥129で前年比57%、トマトがkg¥378で前年比94%、生シイタケがkg¥1,069で97%の3品目となっている。

東京都中央卸売市場の2月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	107,526	91.7	99.3	314	122.6	97.8
た ま ね ぎ	10,294	87.8	108.1	121	116.5	113.1
は く さ い	12,466	110.5	92.8	164	165.7	110.1
キ ャ ベ ツ	11,828	85.2	100.1	252	195.6	127.3
だ い こ ん	8,925	76.9	95.7	173	191.8	89.6
ば れ い し ょ	7,410	112.2	100.3	129	56.6	104.9
に ん じ ん	6,287	100.3	104.6	178	111.2	115.6
レ タ ス	5,475	79.7	106.4	362	156.5	80.4
き ゆ う り	5,004	99.3	106.0	366	116.0	79.2
ト マ ト	4,972	91.3	87.4	378	93.6	95.2
ね ぎ	3,919	95.3	85.5	428	129.6	117.9
か ぼ ち ゃ	2,558	107.9	119.9	153	84.6	89.5
れ ん こ ん	760	119.7	108.4	505	74.5	105.2
な が い も	752	103.6	108.2	337	74.2	94.4
に ん に く	292	95.2	124.3	1,074	92.2	103.2

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の2月の玉葱の販売量は、10,294トン前年比88%（前月比108%）で引き続き減少傾向となっている。主力の北海物は、産地の出荷調整で、入荷は8,380トン前年比87%、占有率は81%前年比2ポイントダウン。静岡物は1,395トンの入荷で前年比91%、占有率は14%で前年比

1ポイントアップ。中国物は370トンの入荷で前年比174%、占有率は4%で前年比2ポイントアップ。平均単価はkg ¥121前年比117%(前月比113%)で堅調に推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg ¥103前年比123%。静岡物がkg ¥228前年比108%。中国物がkg ¥84前年比88%となっている。

旬別の平均単価は、上旬がkg ¥118、中旬がkg ¥124、下旬がkg ¥122で強保合から弱含みに転じた。

3月前半は、北海、静岡物ともに前年を上回る入荷となったが、北海物は売れ行き鈍化で、荷凭れ傾向が続き市場在庫が増加し、産地の強気ムードと裏腹に販売環境は厳しくなった。静岡物は、入荷が主要荷受けに集約されたことで価格維持の販売が続いたが、長崎物は品質的に見劣りし、静岡物に比べ ¥200~300安の販売となった。月後半になっても、北海物の入荷は増加傾向、需要は減少傾向で在庫増となり、見切り売りが散見された。新物は、静岡物はピークを過ぎたものの、長崎物が日毎に入荷増の気配となり、引き合いが弱く、価格維持が厳しくなった。上旬の入荷は前年比106%、平均価格はkg ¥124前年比102%。北海物は前年比110%の入荷で価格は108%、静岡物は前年比108%の入荷で価格は104%。中旬の入荷は前年比106%、平均価格はkg ¥129前年比100%。北海物は前年比104%の入荷で価格は97%、静岡物は前年比130%の入荷で価格は104%。下旬は売れ行き鈍化で北海、静岡物ともに軟調市況が続いている。

名古屋市場

名古屋市中心卸売市場の2月の玉葱の販売量は、5,503トン前年比89%(前月比107%)であった。主力は北海物で、入荷は5,063トン前年比89%、占有率は92%で前年比1ポイントアップ。静岡物は354トンの入荷で前年比74%。占有率は6%で前年比2ポイントダウン。愛知物の入荷は30トンで前年比55%。平均単価はkg ¥105前年比120%(前月比108%)、で強保合に推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg ¥93前年比124%、静岡物はkg

¥245前年比113%、愛知物はkg¥255前年比113%となっている。

3月に入り、静岡物の引き合いが強まったものの、入荷は日量2～3トンの少量で小売店の注文に応じきれず、地場産地愛知物の入荷待ちとなった。北海物のお荷は順調であったが、荷動き鈍化で荷凭れ状態が続き、在庫増に悩まされた。月後半には、静岡物のお荷増と愛知物のお荷が始まり、市場は先安ムードが支配し、価格維持が困難になった。今年のお荷物は、球肥大が悪く小粒で売り辛い。北海物は在庫増で販売の厳しさが増している。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の2月の玉葱の販売量は、3,206トン前年比86%(前月比123%)で、総じては前年比減前月比増となっている。主力は北海物で入荷は2,487トン前年比80%、占有率は78%で前年比5ポイントダウン。兵庫物は430トンの入荷で前年比154%、占有率は13%で前年比6ポイントアップ。静岡物は244トンの入荷で前年比77%、占有率は8%で前年と同じ。長崎物は27トンの入荷で前年比59%。平均単価はkg¥116前年比123%(前月比104%)で、強保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg¥97前年比124%、兵庫の冷蔵物はkg¥148前年比117%、静岡物はkg¥234前年比111%。いずれの産地も前年比高であった。

3月に入ってから、玉葱のお荷は前年比80%前後で、総じて減少傾向が続いている。1～20日の集計値では、北海物のお荷は前年比73%と少なく、兵庫の冷蔵物は前年比157%と多く、静岡の新物も前年比140%と多く、長崎物は63%で少ない。占有率も前年と比べ大きく変動した。平均価格はkg¥122で前年比108%。いずれ産地も前年比高となっているが、此処に来て販売環境は日々軟化している。此の先、晴天が続けば長崎、佐賀の早生物のお荷が急増し、市況は続落歩調となる可能性が強い。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の2月の玉葱の販売量は、2,135トン前年比50%（前月比67%）で、前年比、前月比ともに大幅減となっている。主力は北海物で販売量は1,786トン前年比48%、占有率は84%で前年比4ポイントダウン。中国物が224トンで前年比111%、占有率は10%で前年比5ポイントアップ。長崎物が55トンで前年比44%、占有率3%で前年比と同じ。平均単価はkg ¥109前年比116%（前月比121%）で総じては強保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg ¥106前年比125%、中国物がkg ¥79前年比104%。長崎物がkg ¥233前年比156%。となっている。2月は、販売量を調整して価格維持に努めたが、販売環境は厳しさを増した。

3月に入って、北海物の入荷は順調であったが、荷動きは鈍く、在庫は増加傾向となった。愛媛の冷蔵物は日量2トン前後の入荷だが、品質良好で好価格の販売が続いている。長崎の新物は、生育遅れで入荷が少なく、高値を維持した。此処に来て、愛媛の冷蔵物は、少量定量入荷で市況は保合。長崎物の入荷は増加し、銘柄別の品質差はあるが相場は保合。北海物は相場は保合だが引き弱く在庫が増加傾向。1～20日の販売量は前年比57%、平均価格はkg ¥118前年比115%。北海物の在庫は多い。此の先、新物の入荷増で値下がり相場となる予想。

3月26日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷134トン、 弱保合、

北 海 20kgDB2L ¥1,900～1,400、 L大 ¥1,900～1,400、 L ¥1,400～1,250、

M ¥1,250～

〃 20kgNT2L ¥1,450～ L大 ¥1,500～1,200、 L ¥1,400～1,200、

M ¥1,250～1,200。

佐 賀 10kgDBL ¥2,700～ M ¥2,000～ S ¥1,200～

【太田市場】 入荷260トン、 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥1,800～1,600、 L大 ¥1,800～1,600、 L ¥1,800～1,600、
M ¥1,500～1,400。

静 岡 10kgDB2L ¥1,700～1,500、 L ¥2,300～2,200、 M ¥1,800～1,700、
B ¥1,800～1,600。

長 崎 10kgDB2L ¥1,400～1,200、 L ¥1,800～1,600、 M ¥1,500～1,300、
S ¥1,000～900。

【名古屋北部】 入荷130トン、 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,800、 L大 ¥2,000～1,800、 L ¥2,000～1,800、
M ¥1,600～1,500。

静 岡 10kgDB2L ¥1,900～1,800、 L ¥2,500～2,400、 M ¥2,100～2,000、
B ¥2,000～1,900。

愛 知 10kgDB2L ¥1,800～1,700、 L ¥2,300～2,200、 M ¥1,800～1,700、
S ¥1,000～ 900。

【大阪本場】 入荷80トン、 保合（兵庫・愛媛は冷蔵物）

兵 庫 10kgDB2L ¥1,300～ 500、 L ¥1,800～ 500、 M ¥1,000～300。

愛 媛 10kgDB2L ¥1,500～1,400、 L ¥1,500～1,400、 M ¥1,200～1,000。

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,800、 L大 ¥2,000～1,700、 L ¥1,900～1,600、
M ¥1,600～1,400。

静 岡 10kgDB2L ¥1,600～1,500、 L ¥2,400～2,200、 M ¥1,800～1,600、
B ¥1,800～1,600。

長 崎 10kgDB2L ¥1,300～1,200、 L ¥1,900～1,600、 M ¥1,600～1,300、
B ¥1,200～1,000。

【福岡市場】 入荷222トン、弱保合（愛媛は冷蔵物）

愛 媛 10kgDB2L ¥1,800～1,600、 L ¥1,800～1,600、 M ¥1,500～1,300。

北 海 20kgDB2L ¥2,200～1,800、 L大 ¥2,200～1,800、 L ¥1,900～1,700、
M ¥1,700～1,600。

長 崎 10kgDB2L ¥1,500～1,300、 L ¥2,000～1,700、 M ¥1,800～1,500。

供給(産地)の動き

北海道産地では、ホクレンの在庫減情報と春高ムードに誘導され、在庫を抱えているJA、商系が意外に多い。主力JAでは、4月出荷の高値契約があるので、出荷に焦りは見られないが、商系や生産者の多くは、春高相場が期待外れとなったことで、出荷を急いでいる。近年、貯蔵設備や保管技術が進歩したことで、現在も品質の劣化は少ないが、売れ行き鈍化と、市況安に悩まされている。市場関係者の間では、手持ち在庫が多く、産地に対し出荷抑制の声が多く、出荷は後ズレ傾向となるも、4～5月の出荷量は前年並みか多いと見ている。

府県の早生物は、2月の冷え込みで生育が遅れていたが、数日来の好天続きで、目に見えた回復をしている。現在、静岡は終盤を迎え出荷は日々減少している。長崎、佐賀の早生物の出荷が日々増加する。佐賀では早生の葉鞘の細いのが特に気に掛かる。愛知の極早生は、今年球肥大が遅れ作柄は今一つだが、4月から主産地が出荷期となる。いずれの産地も生育遅れで、作柄は回復段階にあるものの流動的で、確定するには時期尚早である。極早生は不作の可能性が高いが、普通早生・中晩生は平年作は確保出来ると見ている。4月の出荷は、前年並みか上回ると予想している。

北海道産地

春高を期待して、JA、商系とも2～3月の出荷を抑えたことで、出荷が後ズレして在庫が意外に多い。JAの多くは、4～5月の市場販売を高値で事前契約をしていることもあり、出荷に焦りは見受けられないが、契約のない商系やJAで

は、昨今の軟調市況に焦りが出ている。

この冬は積雪量が多く、2月の播種期に風雪に見舞われたが、発芽は順調である。産地の関係者の多くは雪解けが遅れて、適期に定植が出来ないのでと、心配している。

府県産地

4月の出荷の主力は、長崎、佐賀、愛知となる。今年の極早生は、いずれの産地も冬の冷え込みと日照不足で、生育が大幅に遅れ、出荷は後ずれしている。心配された生育も昨今の温暖な晴天続きで、様変わりに回復している。長崎は、4月には雲仙地区の極早生に続き、諫早地区の早生の出荷が始まる。作付は総じて前年比5%程度増加していることから4月の出荷は、前年を上回ると予想している。佐賀も作付は地区別には3~7%増とバラツキはあるが、苗立ちが良かったことで、5%前後の増反になると見ている。作柄を左右するべト病の発生が懸念されているが、現在の発生率は前年の40%に留まっている。愛知の作付は前年比減で、作柄は肥大が進まず前年を下回る。淡路島の早生は、生育が遅れていたが、数日来のポカポカ陽気で草勢が急に勢い付き回復が顕著である。

外国産地

2月の輸入は速報値で、21,837トン前年比113%(前月比98%)で、主力の中国物が順調で、今月も増加傾向となっている。国別では中国が20,560トン前年比116%。タイが654トン前年比80%。アメリカが562トン前年比75%となっている。4~5月の輸入は、中国とNZだが前年を下回ると見ている。

中国、現在も甘肅省に在庫が多いと言うが、此の先産地は4月半ばから雲南省に、5月には河南省に移行する。甘肅省の在庫が多いことで、現地価格は前週からり値下がりしている。現在、日本向け価格は、剥き玉20kg・C&F・甘肅産 \$ 7.00。雲南産 \$ 7.80 の水準である。

ニュージーランド、栽培面積は前年並みで、黄玉が88%、赤玉が12%となって

いる。主力産地のプケコへでは、長雨による播種の遅れと、11～12月の高温旱魃の影響で球肥大が進まず、小玉傾向で大幅な減産となった上に、1月の長雨と高温で病害が発生した。ホークスベイ・南島の作柄はプケコへほどではないが平年作を下回る。生産減から現地価格は値上がりし、現在の日本向け価格は20kg・C&F・¥1,200～1,300である。

4月の市況見通し

2、3月は、北海・府県産とも産地主導の販売態勢となり、追隨した市場荷受各社では価格維持に苦しんだ。特に、入荷が順調であった北海物は、売れ行き鈍化でかなりの在庫を抱えた。府県の早生物は生育遅れで入荷は減少傾向が続いていたが、4月は平年並みに回復する。北海物は当面品余り現象が続くが、荷受各社には事前の高値契約分があり、急な値下がりにはダメージが大きく、価格維持に努める販売になる。府県の早生はべと病の被害が回避されれば、出回り量は前年を上回ると見ている。3月市況は前年比高で推移したことで、いずれの産地も強気の姿勢を崩していないが、需給バランスは日々緩和の方向にあり、4月の市況はじり安となり、月平均価格は前年比安を予想している。(了)